

政策評価シート（令和元～4年度）

評価責任者	所属	観光交流文化局
	氏名	局長 望月 哲也

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

政策	1 静岡の歴史的価値のみがきあげと世界への発信を推進します
政策の目的	<p>【歴史的・文化的資産の保全と活用に対する機運の高まり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○登呂遺跡や久能山東照宮、駿府城跡など、貴重な歴史的資産が豊富にあります。</li> <li>○歴史や文化を身近に感じるまちだと思ふ市民の割合は64%にとどまります。</li> <li>○地域の文化財に親しむ環境を構築し、国内外に発信していくことが求められています。</li> </ul>

(1) 総合評価

評価	<b>A：政策の目的が達成されている</b>
理由	新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、文化財公開事業の一部中止といった影響があったが、児童生徒への歴史事業の啓発やSNSの活用等情報発信の強化、登呂博物館の水田を活用した田園コンサートといったユニークベニューの実施を通じ、歴史文化に触れる機会の拡大が図られた。今後の歴史文化関連事業の展開に向けて、コロナ禍においても歴史文化の価値の共有、シビックプライドの醸成が図られたと評価している。

※【評価基準】 S：政策の目的が十分に達成されている。A：政策の目的が達成されている。B：政策の目的があまり達成されていない。C：政策の目的が達成されていない。  
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

指標名	現状値	R4目標値	実績値 (R4.3末時点)	達成率(%) (R4.3末時点)	評価	目標値の算出根拠
静岡市の歴史を誇りに思う市民の割合	77.1% (H30)	82%	78.20%	95.30%	<b>a</b>	
					<b>—</b>	

※【評価基準】 s：既に目標値を達成している、a：目標値を達成する見込みである、b：目標値をやや下回る見込みである、c：目標値を大幅に下回る見込みである

(3) 第4次総合計画に向けた見直し等

<p>○市民意識調査「静岡市の歴史・文化を身近に感じることができるまちだと思ふ市民の割合」は、平成27年度と比較すると令和3年度時点では3.6ポイント低下している。（H27年度：66.9%、R3年度：63.3%）</p> <p>○静岡の歴史文化を国内外への魅力発信により市民のシビックプライドの更なる醸成を図るとともに、保存・継承及び活用を推進し、歴史文化の魅力向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史文化の拠点づくりの核となる歴史博物館や天守台野外展示、史跡の保存整備事業などにより、本市の伝統と誇りを後世に受け継ぐとともに、静岡の歴史文化の価値と魅力を広く発信</li> <li>・静岡市に所在する文化財をまちづくりや観光交流等に活用しつつ地域と連携して、文化財の保存と確実な継承を目指す文化財保存活用地域計画の策定</li> </ul>
--

(4) 政策を構成する施策及び主要事業

施策1	世界的文化財や地域文化財の保存と継承		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	A	A

施策2	世界的文化財や地域文化財の活用		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	A	A

施策3	徳川家康公、今川義元公を活かした歴史文化の発信		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	A	A

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

政策	1 静岡の歴史的価値のみがきあげと世界への発信を推進します
----	-------------------------------

施策	1 世界的文化財や地域文化財の保存と継承
----	----------------------

**施策の目的** 静岡市内には、世界文化遺産富士山構成資産「三保松原」をはじめ、国宝「久能山東照宮 本殿、石の間、拝殿」や特別史跡「登呂遺跡」など歴史的価値の高い多くの文化財が存在します。その一方、その価値が明らかにされていないものも多く潜在しています。3次総が目指す「歴史文化のまち」の実現には、これらすべてが欠かせない「文化財」であり、確実に未来へ引き継ぐことが求められます。そのために行政、所有者、市民などがその価値を共有し、保存と継承に取り組める体制の構築及び意識の醸成を図ります。

評価責任者	所属	観光交流文化局 文化財課
	氏名	課長 能口富

## （1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	民俗文化財の保存団体の構成員はやや目標値に届かなかったものの、文化財サポーターについては、順調に登録者数を伸ばしている。また、文化財サポーター入門講座の講師や運営補助に文化財サポーターを動員するなど新たな取り組みの実施により、文化財保護に携わる活動機会の提供し、市民との文化財価値の共有や意識の向上が図られた。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	民俗文化財の保存団体の構成員は目標達成には若干届かなかったものの、前年度に比べても増加している。文化財サポーターについては、前年度に引き続き順調に登録者数を伸ばしている。文化財サポーター入門講座の講師に文化財サポーターを動員するなど前年度からの取り組みを継続し、文化財保護に携わる活動機会の提供し、市民との文化財価値の共有や意識の向上が図られた。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	民俗文化財の保存団体の構成員は高齢化と新型コロナウイルス感染症の影響で目標達成には届かなかった。市民ボランティアの人数は、多岐にわたる文化財に触れる機会を提供するなど意識の高揚を図ることによって毎年登録者数を順調に伸ばしている。文化財サポーター入門講座では、文化財保存会や関係団体だけでなく大学や高校の教育機関に対して積極的な情報発信をすることで受講者の年齢層が広がり、幅広い市民との文化財価値の共有や意識の向上が図られた。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。  
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## （2）成果指標

	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（％）	評価	目標値の算出根拠
			1	494人	484人	97.9%	a	
成果指標	民俗文化財保存団体の構成員数	494人	2	494人	493人	99.8%	a	文化財保存に直接関わる人数が増え後継者が育成できる状態を測る指標として、民俗文化財保存団体の構成員数を指標とした。減少傾向にある民俗文化財保存団体の後継者を育成することで現状値を維持することを目標とする。
			3	494人	466人	94.3%	b	
			4	494人	—	—	—	
			1	114人	122人	107%	s	
	文化財保護事業に携わる市民ボランティアの人数	101人	2	126人	133人	105%	s	市民と歴史的価値を共有できた指標として捉えられるため指標とした。前年度の文化財サポーター入門講座受講者の6割程度が、次年度の文化財サポーターとして登録すると想定した。 【参考】 文化財サポーター入門講座募集定員：20人
			3	138人	147人	106.5%	s	
			4	150人	—	—	—	
			1					
指標以外の成果			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
文化財サポーター育成	①文化財サポーター入門講座の実施（全5回） ②文化財サポーターの活動機会の提供（R3:5回）	2	1	434	0	39	0.5	0.0	0.0	○
			2	368	0	11	0.5	0.0	0.0	
			3	368	0	16	0.5	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
神部神社浅間神社本殿ほか15棟建造物の保存修理事業（静岡浅間神社社殿建造物保存修理事業）	①重要文化財建造物静岡浅間神社社殿群の修繕に対する助成	1	1	25,700	0	21,000	1.0	0.0	0.0	○
			2	29,400	0	29,400	1.0	0.0	0.0	
			3	30,000	0	30,000	1.0	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
久能山東照宮本殿・石の間・拝殿ほか13棟建造物防災施設事業（久能山東照宮文化財保存修理事業）	①国宝及び重要文化財建造物久能山東照宮社殿群の防災設備修繕に対する助成	1	1	30,000	0	30,000	2.0	0.0	0.0	○
			2	13,358	0	13,358	2.0	0.0	0.0	
			3	10,762	0	10,752	2.0	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
史跡片山廃寺跡保存整備事業	①地下を把握するための発掘調査を実施（1件/年） ②発掘調査の成果及び史跡整備の方向を整備委員会に報告（1回/年）	1	1	923	0	576	1.5	0.0	0.0	○
			2	111,220	0	110,517	1.5	0.0	0.0	
			3	1,093	0	320	1.5	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
史跡小島陣屋跡保存整備事業	①発掘調査の実施（R3:32.7㎡） ②御殿書院移築復原実施設計の実施（R3） ③史跡整備実施設計の実施（R3） ④整備委員会の開催（2回/年） ⑤整備予定地（便益施設）の公有地化	1	1	15,922	0	7,776	1.5	0.0	0.0	○
			2	19,666	0	11,867	1.5	0.0	0.0	
			3	119,163	7,448	56,256	1.5	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	文化財保存団体構成員や文化財保護活動に参加する世代の高齢化が進んでいる。次世代の文化財保護を担う人材の育成や参加を進め、文化財の保存継承と活用を図っていく必要がある。	文化財保存整備事業が文化財の価値を広く知ってもらう機会と捉え、修理現場や発掘調査現場の公開などにより市民等とその価値に触れる機会を提供し、文化財の保護や維持管理、活用を担う体制を構築していく。
令和2年度	新型コロナウイルスの影響により、新たに入門した文化財サポーターの育成機会を確保することが難しい。また、新規サポーターは高齢者が多いためオンライン講座も開催が困難である。このようなコロナ禍のなかで新規の文化財サポーターや既存の文化財サポーターをどのように育成していくかを検討する必要がある。	高齢の新規文化財サポーターに対しては講座を分散化して開催するなど、開催方法を創意工夫し、コロナ禍における育成の継続を図る。また、既存の文化財サポーターにおいては、開催が限られた文化財事業を最大限活用して、活動の機会を提供するよう取り組んでいく。
令和3年度	文化財サポーター入門講座は現地にて実物を目にする機会が必要となる講座であるため、新型コロナウイルス感染症等の影響により中止を余儀なくされる場合がある。また、新規サポーターは継続して増加傾向にあるが、既存サポーターの活動率の低下が懸念される。	文化財サポーター入門講座の開催方法については、建物内で実施する場合、2部制などの形を用いて対応することを検討する。既存の文化財サポーターの活動については、地域の文化財の保護にあたり、文化財所有者が抱えている課題等を踏まえ、課題解決のサポートを視野に入れていくことで、サポーターを活用する機会に繋げていく。
令和4年度	—	—

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

政策	1 静岡の歴史的価値のみがきあげと世界への発信を推進します
----	-------------------------------

施策	2 世界的文化財や地域文化財の活用
----	-------------------

**施策の目的**  
 静岡市内には、世界文化遺産富士山構成資産「三保松原」をはじめ、国宝「久能山東照宮 本殿、石の間、拝殿」や特別史跡「登呂遺跡」など歴史的価値の高い多くの文化財が存在します。3次総が目指す「歴史文化のまち」の実現には、これら「文化財」の価値を正しく理解した上で、地域の貴重な資源として活用していくことが求められます。そのために文化財の価値を広く発信し、文化財の公開活用による意識の醸成や地域の活性化につながる体制の構築を図ります。

評価責任者	所属	観光交流文化局 文化財課
	氏名	課長 能口富

## （1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	成果指標としている「文化財公開事業の開催日数」では目標値を下回ったが、公開日には多くの人々が訪れた。「国指定文化財等でのユニークベニューの開催件数」については、平成31年3月にオープンした「みほしるべ」において7回開催したことにより目標を大きく上回った。「みほしるべ」で企画展示やイベントを開催し、積極的にPRを行ったことで、予想を上回る約67万人（目標21万人）の来館があり、情報発信による意識の醸成や地域の活性化に大きく寄与した。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	成果指標としている「文化財公開事業の開催日数」では目標値を下回ったが、公開日に訪れた人は昨年を上回った。「国指定文化財等でのユニークベニューの開催件数」については、「みほしるべ」と登呂博物館での開催件数が前年度を大きく上回り、目標を達成した。また、SNSを通じた情報発信により令和3年度3月末時点で「みほしるべ」の来館者数が99万人を越え、文化財の価値を多くの人に共有することができた。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	成果指標としている「文化財公開事業の開催日数」では、新たに文化財所有者に対し、協力依頼を行い開催を予定した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施が困難となり、目標値を下回ったが、公開日には多くの人々が訪れた。「国指定文化財等でのユニークベニューの開催件数」については、「みほしるべ」と「登呂博物館」、その他文化財課が管理する各施設で積極的にユニークベニューを実施した結果、目標を達成した。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。  
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## （2）成果指標

	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	8件	12件	150.0%		
成果指標	国指定文化財等でのユニークベニューの開催件数	7件	2	9件	18件	200.0%	s	歴史的価値が全国的にも高いと認められる国指定文化財等をユニークベニューで（副次的に）活用する件数を指標とした。平成30年度実績を基準とし、毎年度1件ずつ開催件数を増やすことを目標とした。
			3	10件	18件	180.0%	s	
			4	11件	—	—	—	
			1	24日	20日	83.3%	c	
	文化財公開事業の開催日数	22日	2	26日	20日	77%	c	
			3	28日	10日	35.7%	c	
			4	30日	—	—	—	
			1					
指標成果以外の			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
三保松原保全再生事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松原保全研修の開催</li> <li>・名勝指定100周年事業の開催（令和4年3月）</li> <li>・リスク軽減事業（マツを病気から守る事業、倒木を防ぐ事業等）</li> <li>・松原再生事業（松原の景観改善事業、健全な松林維持事業）</li> <li>・三保由来のマツを育てる母樹園、苗畑、松林とするエリアの整備</li> </ul>	1	1	245,559	0	230,943	3.0	0.5	0.0	○
			2	198,124	0	163,475	2.5	0.5	0.0	
			3	203,769	0	193,218	2.5	1.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
駿府九十六ヶ町町名碑設置事業	①町名碑設置（R3: 4基）	2	1	2,970	0	2,649	0.2	0.0	0.0	○
			2	2,970	0	2,768	0.2	0.0	0.0	
			3	2,970	0	2,523	0.2	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	市内に存在する文化財の価値や魅力が広く知られておらず、所有者と連携した積極的な情報発信、公開活用が必要である。	文化財の保存活動やイベント等をSNS等を活用して積極的にPRを行うことで、文化財の価値や魅力を情報発信していく。文化財としての価値を保存しながら、ユニークベニューやイベント等の開催により文化財を活用した地域の活性化、観光資源につながる体制を構築していく。
令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響により、不特定多数が集まる大規模な保全活動が開催されていないため、既存のグループや個人での保全活動参加を促し、リピートしてもらえる仕組みづくりをする必要がある。</li> <li>・市内には多数の文化財があるが、保存や管理の観点などからも、それらが全て公開されているわけではない。こうした文化財について、その存在や価値について広く知ってもらうためのPRや公開活用が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントや保全活動をSNSで発信するだけでなく、三保松原での保全事業の成果のウェブサイト公開や講演会のオンライン配信などで、より深く継続して三保松原の保全に関わる市民を増やしていく。</li> <li>・文化財特別公開事業について、新たに保存修理を行う際に、助成の段階から文化財の所有者に事業を周知し、公開する文化財の拡充を図る。</li> </ul>
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響により、保全活動を見合わせる民間企業等の団体が多かった。個人や少人数グループに対し、継続的な活動を促すとともに、新規参加者の増加を図る必要がある。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により6箇所の公開が中止になった。市内にある多くの文化財の価値を市内外に広く周知するにあたって、その方法を改めて検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存グループの保全活動についてSNS等を活用しPRするとともに、講演会等で松原保全の重要性を発信していく。また、外部団体と連携した保全イベントを開催することで、新規参加者を増やしていく。</li> <li>・開催に当たっての懸念事項を事前に確認し、対策を示したうえで協力を依頼していく。また、SNSの活用、ユニークベニューの実施をさらに推進し、無関心層に対しても様々な方法で文化財の価値や存在を周知していく。</li> </ul>
令和4年度	—	

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

政策	1 静岡の歴史的価値のみがきあげと世界への発信を推進します
----	-------------------------------

施策	3 徳川家康公、今川義元公を活かした歴史文化の発信
----	---------------------------

施策の目的	3次総に掲げる歴史文化のまちづくりの実現に向け、徳川家康公をはじめとする地域の歴史資源を掘り起こし、磨き上げ、市内外に広く発信して市民の誇りの醸成と集客を図ります。 具体的には、歴史文化のまちづくりの核施設として今後開館を目指す歴史文化施設の整備事業に重点的に取り組むほか、駿府城跡天守台発掘調査現場を見える化することにより歴史学習の場や観光資源として活用することや、平成27年の徳川家康公顕彰四百年記念事業を400+プロジェクトとして継承することによって、地域の歴史文化への関心喚起を図ります。
-------	---

評価責任者	所属	観光交流文化局 歴史文化課
	氏名	課長 花村 章弘

## （1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	今川氏をテーマとした歴史文化施設のプレ展示や、今川氏にゆかりの深い臨濟寺の資料調査の報告会などにより、今川氏を発信することができた。また、駿府城跡天守台発掘調査現場は15万人を超える来場者があり、歴史学習や観光資源としての活用を図ることができた。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	今川氏にゆかりの深い臨濟寺の資料調査の実施・完了、今川義元公銅像PR・小学校へのマンガ本配布など今川義元公生誕500年祭推進委員会との連携により今川氏を発信することができた。また、駿府城跡天守台発掘調査現場は来場者は約6万8千人とコロナ禍の影響で前年度比で減少したものの、ブログや出前講座等を通じた積極的な情報発信も行うことにより、歴史学習や観光資源としての活用を図ることができた。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	今川氏にゆかりの深い臨濟寺の資料調査の講演会を実施、コロナ禍により定員を減らしながらも、181人の来場があった。また、小学校へのマンガ本配布など今川義元公生誕500年祭推進委員会との連携により今川氏を発信することができた。駿府城跡天守台発掘調査現場の来場者は約9万3千人とコロナ禍の影響にも関わらず前年度比で増加、ブログや出前講座等を通じた積極的な情報発信も行い、歴史学習や観光資源としての活用を図ることができた。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。 A：施策の目的が達成されている。 B：施策の目的があまり達成されていない。 C：施策の目的が達成されていない。 —：評価できない。  
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## （2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	2	3	4		
成果指標	徳川家康公を郷土の偉人として誇りに思う市民の割合	83.4% (平成30年度)	1	—	—	—	—	市民アンケートにおける「徳川家康公を郷土の偉人として誇りに思う」の問いに対し、「そう思う」と回答した人の割合について、平成30年度83.4%を基準とし、令和4年度88.8%の達成を目標としている。
			2	—	—	—		
			3	—	83.9%	—		
			4	88.8%	—	—		
	今川義元公を郷土の偉人として誇りに思う市民の割合	63.3% (平成30年度)	1	—	—	—	—	
			2	—	—	—		
			3	—	64.70%	—		
			4	72.0%	—	—		
指標以外の成果	なし		1	—	—	—	—	
			2	—	—	—		
			3	—	—	—		
			4	—	—	—		

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
歴史文化施設建設事業	①歴史文化施設の建設・展示設計及び工事 ②歴史文化施設の展示資料収集・調査 ③建設予定地の発掘調査・資料整理（～R2年度）	1	1	483,700	148,660	325,582	7.5	1.5	0.0	○
			2	574,483	279,900	363,623	7.5	1.5		
			3	1,390,306	446,200	1,799,104	8.3	1.2		
			4	—	—	—	—	—	—	
駿府城跡天守台発掘調査見える化事業	①常設見学ゾーン・発掘情報館「きゃっしる」での速報展示 ②現場見学会、講演会実施	2	1	19,384	—	15,256	3.0	2.0	0.0	○
			2	11,244	—	8,449	3.0	2.0		
			3	11,061	—	8,891	1.5	2.0		
			4	—	—	—	—	—	—	
歴史文化施設プレ事業	①歴史文化施設基本展示につながるテーマ展示の実施 ②歴史観光ガイドの試行 ③今川氏顕彰事業の実施	3	1	6,560	—	6,193	0.5	0.5	0.0	○
			2	5,219	—	4,770	0.5	0.5		
			3	10,412	—	8,769	0.2	0.8		
			4	—	—	—	—	—	—	
歴史文化推進事業	①徳川みらい学会と連携した講演会等の実施 ②民間団体や関連自治体と連携した情報発信	4	1	2,768	—	2,479	1.5	1.0	0.0	○
			2	2,428	—	2,120	1.5	1.0		
			3	2,428	—	2,385	1.0	0.0		
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	なし	なし
令和2年度	なし	なし
令和3年度	なし	なし
令和4年度	—	—